

第19回 腹証奇覧・奇覧翼を読む

黄土湯他

四 診 § 切 診

峯 尚志

今回学ぶ処方

(○は文礼の●は叔虎の解説)

○黄土湯

○薏苡附子敗醬散

●風引湯

○土瓜根散

○小品奔豚湯

○広済奔豚湯

○防風茯苓湯

○小品牡蛎奔豚湯

黄土湯

黄土、炙甘草、地黄、蒼朮、附子、阿膠、黃芩

黄土

別名：黄土・灶（竈）心土・灶心黄土・伏竜肝

長年焚木で焼かれた黄土製かまどの中央部の焼け土

【性味】辛，微温

【帰経】脾・胃

【臨床使用の要点】黄土は辛・微温で，温中して摂血止血するので，虚寒の気不摂血による便血・崩漏・吐血・衄血などに適し，とくに胃腸出血に効果がある．また，辛温で温中散寒・和胃止嘔に働くため，胃寒気逆の嘔吐・反胃に有効であり，妊娠嘔吐にも良効を示す．温中渋腸止瀉の効能もあり，脾虚久瀉不止に用いる．



「中医臨床のための中薬学」神戸中医学研究会

○黄土湯（文礼）

図の如く

臍の四辺動気して

時々奔豚気上がり攻めて

心胸を衝く者

或いは冷痛し手足不仁（しびれ）

或いは小便不利

或いは吐血衄血

或いは下痢

或いは小便膿血の者

皆、この方を用いて対効あり



黄土湯の目標

- 臍の左あたりが動悸し、時には奔豚気のように動悸が上に上がって胸に衝き上げ、ひどい者は脳貧血を起こして倒れる者。
- この瘀血上がり衝くものにあり、故に吐血、衄血、あるいは下血、あるいは小便に血を通ずるもの、皆この方を用いて大効あり
- 黄土湯は瘀血が上がって胸を衝くものであるから、奔豚に似て奔豚でない。

出血性ショックで頻脈な患者さん厥陰病と思われる

墮胎後にこの証甚だ多し凡て血を脱すること過多の者この証多しその腹診の分かち右に配するの方剤皆、動気奔豚気を以て眼とすると雖もその動、他に比べぶれば至りて甚だしき者をこの証と知るべし

黄土湯の目標は、脈微細または、沈遅弱で、貧血、皮膚乾燥がみられ、腹力のないもので、手足厥冷、または煩熱するものにもちいる。

竜肝散

- 黄土一味を竜肝散といい、胸痛、嘔吐、悪気にあたって、病むものによい。わきがには何度も塗りつけるがよい。小児の臍のただれにもよい。
- 小児の唾石には酢につけて塗る。
- 産後瘀血のため胸が痛む者は酒で二酌を服用する。子宮出血、おりもの、吐血、喀血、および陣痛をおこし、後産を促進するのに非常に効果がある。

妊娠悪阻に伏龍肝煎

- 悪阻の激しいものには、黄土4 g を器に入れ、水600ccで十分攪拌し、清水となるのを待って
- 上澄み500ccを以て小半夏加茯苓湯を煎じて服用する。
- 冷たく冷やして服用すると有効である

潰瘍性大腸炎の出血下痢に黄土湯変方合桃花湯

鍋谷欣市

1

黄土湯

黄土、炙甘草、地黄、蒼朮、附子、阿膠、黄芩

2

黄土湯変方

(地黄、附子、黄芩を抜いて艾葉、当歸を加えている)

E黄土3-6、阿膠3、艾葉3、当歸3、加 芍薬2、甘草2、Or 人參3、白朮3、茯苓3

3

桃花湯

赤石脂6、乾姜1.5-3、粳米8



赤石脂

基原：酸化第二鉄を多量に含む。雲母源の粘土塊

性味：甘、酸、渋、温

帰経：腎、大腸

薬能：**浚腸止瀉、斂血止血、固精止帶、生肌収口**



○薏苡附子敗醬散

薏苡仁、附子、敗醬草

○薏苡附子敗醬散（文礼）

図の如く、腹腫ること腸満に似たり
其の膚（はだ）甲錯、腹皮急し
之れを按ずるに軟なり
甲錯は、鑿（たがね）の
いりまじわりたる如く
手にあたりて粗きものなり。
この証、世に間々あり。
方証相對して攻めざるときは
年月を経ると雖も治せず
慢性の虫垂炎、子宮内膜症、クローン病などの炎症性腸疾患



若かりし頃の文礼の症例 27才、女性

腹満著しく、腹脹しているが按ずると軟らかい、肌はざらざらして苦しい状態がもう、3年も治らない。

いろいろな医者にみせるが効果無く文礼が往診する。

腹満して身重く、妊婦のようである。

床から離れられない訳ではないが、胸苦しくて歩行できない。

大承気湯で攻めるが、効果なく、大柴胡湯を半年ほど与えるが効果がなかった。

家族は憮然として「あんたは、日頃、自信満々で大口をたたいているが、少しも治らないではないか。娘は生涯、廃人になるしか道はないのか。いったいどの医者に診せたらいいのか」と嘆いている。

そこで、師匠の鶴先生に、事の次第を話し往診をお願いした。

鶴先生、曰く

「おまえは、未熟ゆえに、病人があれば必ず私に報告してから治療すべしと申しつけていたではないか。それなのに報告もせず、ちゃんと腹をみもしないでこのような強い処方を出して、病人さんを苦しめている。術に励まず、師をないがしろにするのは大罪である。おまえのような未熟者が、私たちの古医道をみだすのだ。なんと哀しいことであろうか。」

「この証、肌甲錯、腹皮急、之れを按ずれば軟なるものこれは薏苡附子敗醬散の証である。おまえが用いた大承気湯、大柴胡湯の証がどこにあるものか。この傲慢な失敗を忘れずに、今後は軽率な行為を慎みなさい」

私は、大いにこの罪を誤り、教えに従ってこの処方を与えた。すると二旬（20日？）ばかりでその病は急に癒えた。私は、これを機に、腹診の術を日々精進して、その後の医術を進歩させた。

昔、よく使われたてんかん、引きつけの妙薬

●風引湯

桂枝、甘草、乾姜、大黃
竜骨、牡蠣、寒水石、滑石、赤石脂、白石脂、紫石英、石膏

●風引湯（叔虎）

右図の如く
胸いっぱいにはり満ち、
動気奔豚の如く上がりて心を衝き
肩息短気、乾嘔、若しくは喘急、
激しき者は直視（目を据え）
上竄（そらめつかい）（眼球上転）
きそう搐搦
水飲喉に下らざるもの
何の病因を論ぜず一切に以て
風引湯の証とすべし



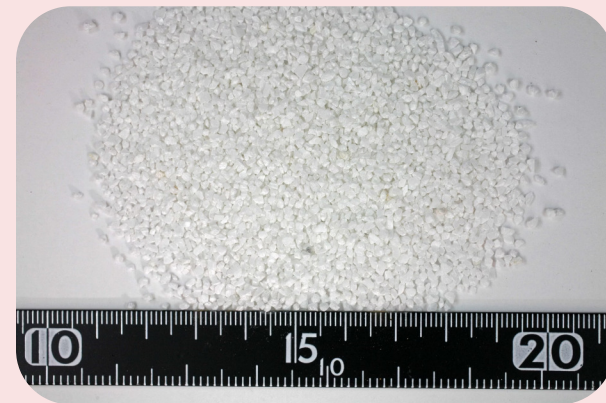
寒水石

「中医臨床のための中薬学」神戸中医学研究会

古代の正品はGlauberite $\text{Na}_2\text{Ca}(\text{SO}_4)_2$ であるが近年は炭酸カルシウム塩類結晶である

- 方解石 Calcitum CaCO_3 を用いている.
- 【性味】辛・鹹，大寒 【帰経】肺・胃・腎
- 【臨床使用の要点】

寒水石は辛鹹・大寒で，肺胃に入り，兼ねて腎に入り，清熱瀉火・除煩止渴に働くので，暑温邪在気分の壮熱煩渴に適用する.



骨と牡蠣

竜骨

性味：甘、渋、平

帰経：心、肝、腎

薬性分類：重鎮安神薬

鎮心安神

動悸健忘不眠多夢（酸棗仁、茯苓、遠志）

平肝潜陽

肝陰虚陽亢によるふらつき、めまい

（牡蠣、釣藤鈎）

収斂固脱

陽虚の自汗（黄耆、山薬、牡蠣）

牡蠣

性味：甘、渋、微寒

帰経：胆、肝、腎

薬性分類：重鎮安神薬

鎮驚安神

驚きやすい、ビクビクする、焦燥不眠多夢

益陰潜陽

熱病傷陰、虚風内動で四肢のひきつり、ふるえ

（べっ甲、地黄、芍薬、麦門冬、阿膠）

収斂固脱

自汗盗汗（黄耆、五味子）崩漏（竜骨、地黄、山薬）

軟堅散結

リンパ腫（貝母、玄参）

風引湯の方たるや誠に奇なり、
妙なり医家の常に製してもって救急に備えずんば
あるべからざる所のものなり

津田玄仙『療治茶談』

「小児で原因がわからず、熱があつて、上目使いで歯を咬み、胸に何か上がってくるようで、手足の痙攣
呼吸が短く、奇妙な声を出して泣く驚癇のような症状に有効である」

○土瓜根散

土瓜根（胡瓜の根？カラスウリの根）

芍薬、桂枝、廔虫

土瓜根

カラスウリ *Trichosanthes cucumeroides*.の根。

『神農本草経』王瓜（一名土瓜）
消渴内痺、瘀血月閉、寒熱酸疼を治す。
気を益し、聾を癒す。活血化瘀。

【参考】第十八改正日本薬局方 カロコン

Trichosanthes kirilowii Maximowicz,
キカラスウリ *Trichosanthes kirilowii* Maximowicz var. *japonica*
Kitamura 又は
オオカラスウリ *Trichosanthes bracteate* Voigt (Cucurbitaceae) の
コルク層をできるだけ除いた根である。

『神農本草経』栝楼（一名地楼）
生川谷。治消渴。身熱煩滿。大熱。補虚安中。續絶傷。

カラスウリ



キカラスウリ



栝楼根

シナカラスウリの外皮を去った根

性味：甘、微苦、酸、微寒

帰経：肺、胃

薬能：養胃生津、止渴

清肺潤燥、消腫排膿

栝楼仁

シナカラスウリの種子

性味：甘、寒

帰経：肺、胃、大腸

薬能：清熱化痰

利気寛胸、降濁散結、消腫散結



○土瓜根散（文礼）

図の如く

臍傍小腹に拘攣するもの有りて

婦人は經水利せず、

あるいは白物を下し

或いは帯下の患あり

男子は血証にして

時として腹痛する者に

この証、間々あり

且つ小腹拘急することあるを考うべし



金匱要略

婦人雜病脈証治篇

「帯下、経水利せず、少腹満痛し、経一月に再見するは、土瓜根散之れを主る」

帯下があり、月経がうまく出ないで、下腹部が膨満し、月経が月に二度もあるような場合に用いる。

また男子では、陰部腫痛が指示されており、睾丸炎、陰嚢水腫、象皮病、いんきんたむし等に応用している

抵当丸に比べて土瓜根散は、まだ凝り固まるまではいかない瘀血証に用いる。

ここまでのまとめ

- 黄土湯は、各種出血性病変により、血圧が下がり、頻脈となった危篤の患者さんに対して、出血をとめ、陰血を補い、腎陽を鼓舞する方剤である。
- 出血を伴う潰瘍性大腸炎に鍋谷先生の治験が多数報告されているが、他施設の追試は少ない。
- 薏苡附子敗醬散は慢性の炎症性疾患で消耗し、腹が満して皮膚が甲錯しものに用いる処方で、慢性の虫垂炎、子宮内膜症、クローン病などの炎症性腸疾患に用いられたと考えられる
- 風引湯は桂枝甘草竜骨牡蛎に大黄と、様々な重鎮安神薬である鉉物を加えたもので、発熱を伴った痙攣や、てんかん、引きつけなどに用いられた処方で、叔虎はこの処方をよく用いたようである。
- 土瓜根散は土瓜根と廔虫という駆瘀血薬を含む処方で、下腹部の瘀血に対する処方と思われる。廔虫はサツマゴキブリであるが、当時はイナゴなど他の虫類を用いたものと思われる。

奔豚を考える

奔豚湯（金匱要略）

「奔豚の病は小腹より起こり、上って咽喉を衝き、発作するときは死せんと欲し、また還って止まる。皆驚恐よりこれを得る。」

奔豚とは

奔豚とは、豚が走るように発作性に動悸、息切れ、胸苦しさなどをおこす病状のこと
病因として発作性頻拍症、不整脈、甲状腺機能亢進症、僧帽弁逸脱症、解離性障害、パニック発作などが考えられるが、明らかな器質的病変はないことも多い。

何の誘因もなく、突然おこり制御不能なため、これまで感じた事のないような不安や恐怖を覚える
その背景として抑圧した不安や怒りなどの情動を抱えていることも多い

津田玄仙『療治経験筆記』

「物に驚くか、恐るることあってそれから発したるという時は、この方極めて効あり」

3例の症例 いずれも突然の驚きと不安を覚えるエピソードあり

1. 火事に驚いた
2. 子供の痘瓶が難症で血を吐いたことに驚いた
3. 祈祷師の声が高いことに驚いた

「死ぬように思わる、息を止めるように覚える、動悸強く、、、」というように死にそうな不安感を伴うことが記載されている

奔豚気病脈証治 金匱要略

奔豚湯

奔豚、気上衝胸、腹痛、往来寒熱するもの

甘草、川芎、当帰、半夏、黄芩、葛根、芍薬、生姜、李根白皮

桂枝加桂湯

焼針後の脱汗による奔豚

桂枝5両、芍薬、甘草、生姜、大棗（桂枝湯の桂枝は3両）

茯苓桂枝甘草大棗湯

発汗後、臍下悸するもの、責豚をなさんと欲す

茯苓、桂枝4両、甘草、大棗

動悸の処方のはじまり

桂枝去芍薬湯

太陽病、之れを下して後、脈促胸満するもの桂枝去芍薬湯之れを主る

促脈：頻脈で不規則な間欠がある脈急いで走っている人が時につまづくような脈
脈の結代については大棗の栄養作用が重要

桂枝加桂湯

焼針してその汗を出さしむ、針は寒を被るところ、核起きて赤き者、必ず奔豚を發す、氣小腹より登りて
心を衝くものは、灸その核上に各一壯をすえ、桂枝加桂湯をあたう

突然おきる動悸を治す桂枝甘草湯への発展

「汗を発すること過多、その人手を叉（交叉）し、自ら心をおおえども 心下悸して按を得んと欲する者 桂枝甘草湯之れを主る」

腹痛を治す芍薬甘草湯のように発作的な動悸、頻脈を治す処方

奔豚の処方としての茯苓桂枝甘草大棗湯

「発汗後、臍下悸するもの、責豚をなさんと欲す 茯苓桂枝甘草大棗湯之れを主る」

茯苓、桂枝4両、甘草、大棗

奔豚湯と名のつく処方あるいは類似処方は10種類以上ある

奔豚湯ラインアップ

○小品奔豚湯

桂心、炙甘草、李根皮、竹節人參、葛根、黄芩、栝楼仁、川芎

○広済奔豚湯

桂心、炙甘草、李根皮、竹節人參、半夏、乾姜、**茯苓**、炮附子

○防風茯苓湯

桂枝、甘草、竹節人參、半夏、乾姜、**茯苓**、防風

○小品牡蛎奔豚湯

桂心、炙甘草、李根皮、牡蠣

肘後備久奔豚湯

桂枝、甘草、人參、半夏、吳茱萸、生姜

定悸飲

桂枝、甘草、李根皮、牡蠣、吳茱萸、**茯苓**、白朮

奔豚湯の基本的パーツ

李根皮

桂枝

人参

急な発作を治す目的と発作予防の目的
心気を補う、脾を補う

甘草

李根皮と桑白皮

李根皮

基原：バラ科スモモの、樹皮或いは根皮

性味：苦鹹、寒

帰経：肝

効能：清熱し、気を下し、解毒する

脚気、丹毒、化膿性のできもの

安神作用 心煩、気逆、奔豚を治す

（桑白皮で代用可）

桑白皮

基原：クワ科のカラグワのコルク層を除去した樹皮

性味：甘、寒

帰経：肺

効能：瀉肺平喘、利水消腫

○小品奔豚湯

（葛根李根皮湯）

炙甘草、李根皮、葛根、黄芩、桂心、栝楼仁、竹節人參、川芎

上衝（項背強、頭痛）

李根皮

桂心

葛根

川芎

心下（心下痞結、往来寒熱）

人參

甘草

栝楼仁

黄芩

炙甘草、李根皮、葛根、黄芩、桂心、栝楼仁、竹節人參、川芎





○小品奔豚湯

図の如く、
その人胸満して気急速迫、
俗に言う「息たわしく」、
時々息切れして起居安からず、心細く、
時々臍の左右より奔豚気発り、
鬱冒して項背強急し、
或いは手足厥冷する者
この方の正証なり





肉桂と桂心

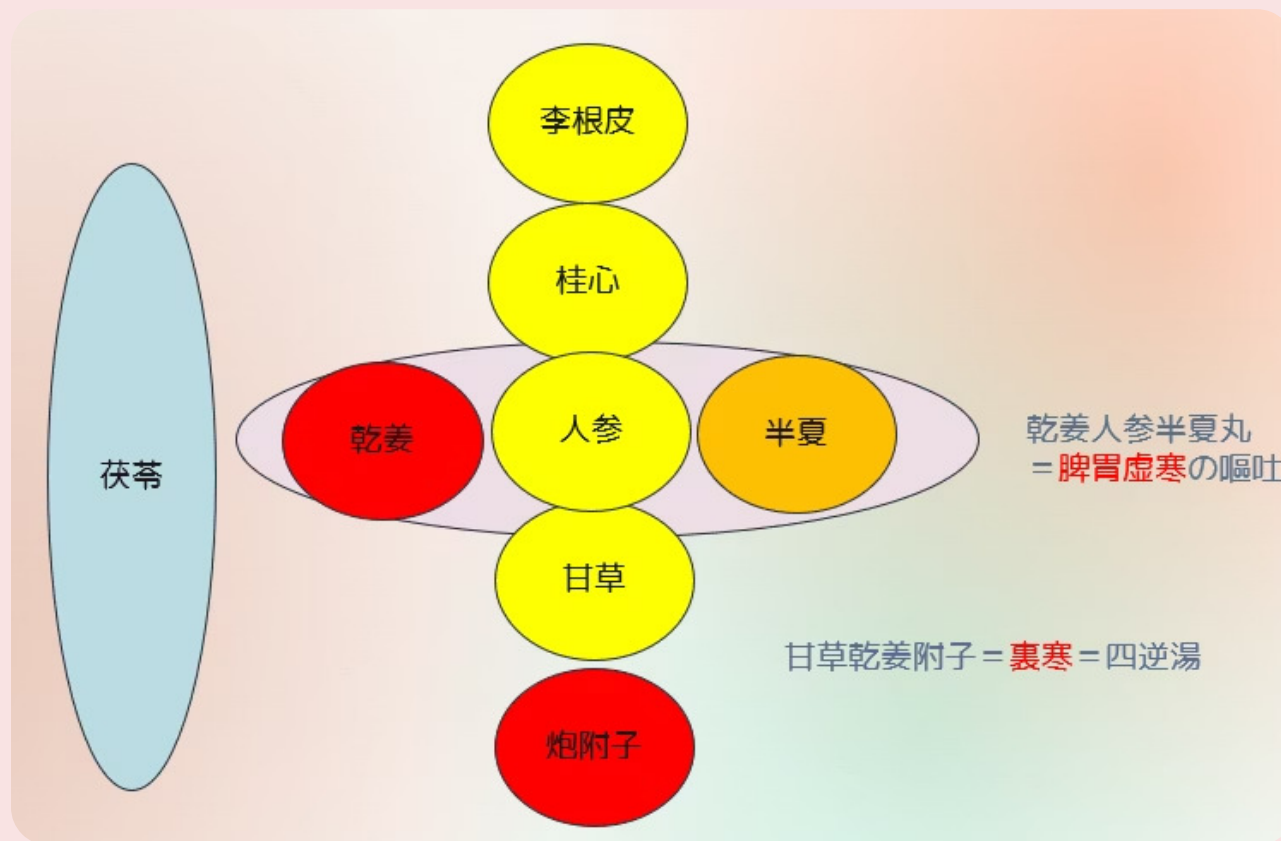
桂心は肉桂の外皮であるコルク層を除いたもので
心、脾経に入り、補陽活血に働くので
心腹冷痛に適し

外科の癰疽、痘瘡の内托にも用いる

さらに外側の周皮も取り除く

廣濟奔豚湯

桂心、炙甘草、竹節人參、李根皮、半夏、乾姜、茯苓、炮附子





○廣濟奔豚湯

図の如く

臍底に動悸あり

また、心胸に奔豚気少しく客すること暗然たり。

吸々として気急促迫、

人語を聞くことを欲せず

或いは心下煩乱して安からず

発作時にあり、

或いは四肢煩疼、手足逆冷

或いは気上がりて心胸を衝くもの

この証、世に癰氣と号する者に甚だ多し、

諸薬投ずるに効なし。

此の方にあらざれば治せざるなり。

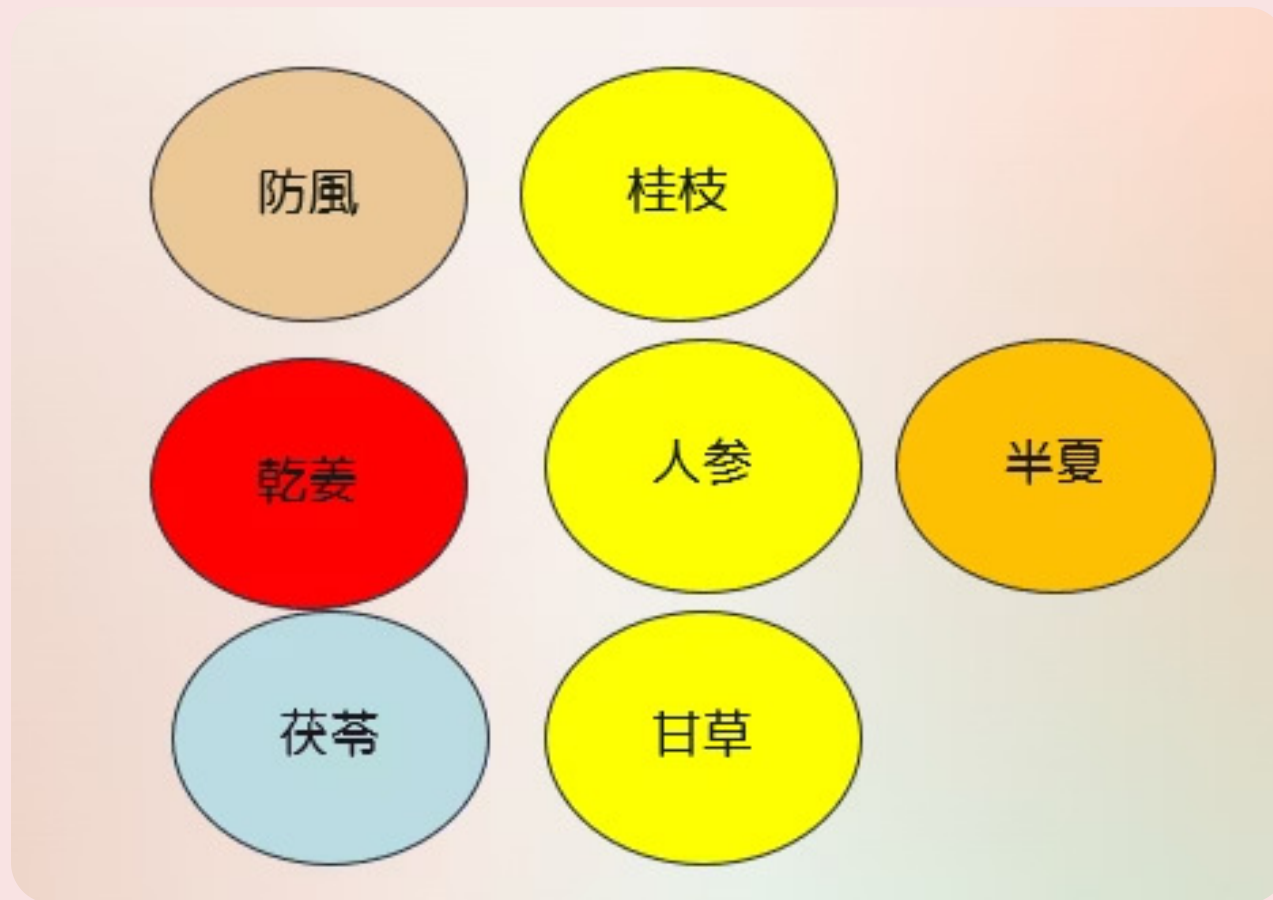




廣濟奔豚湯は体力低下し
脾腎陽虚の奔豚に用いる

防風茯苓湯

桂枝、半夏、乾姜、竹節人參、甘草、茯苓、防風



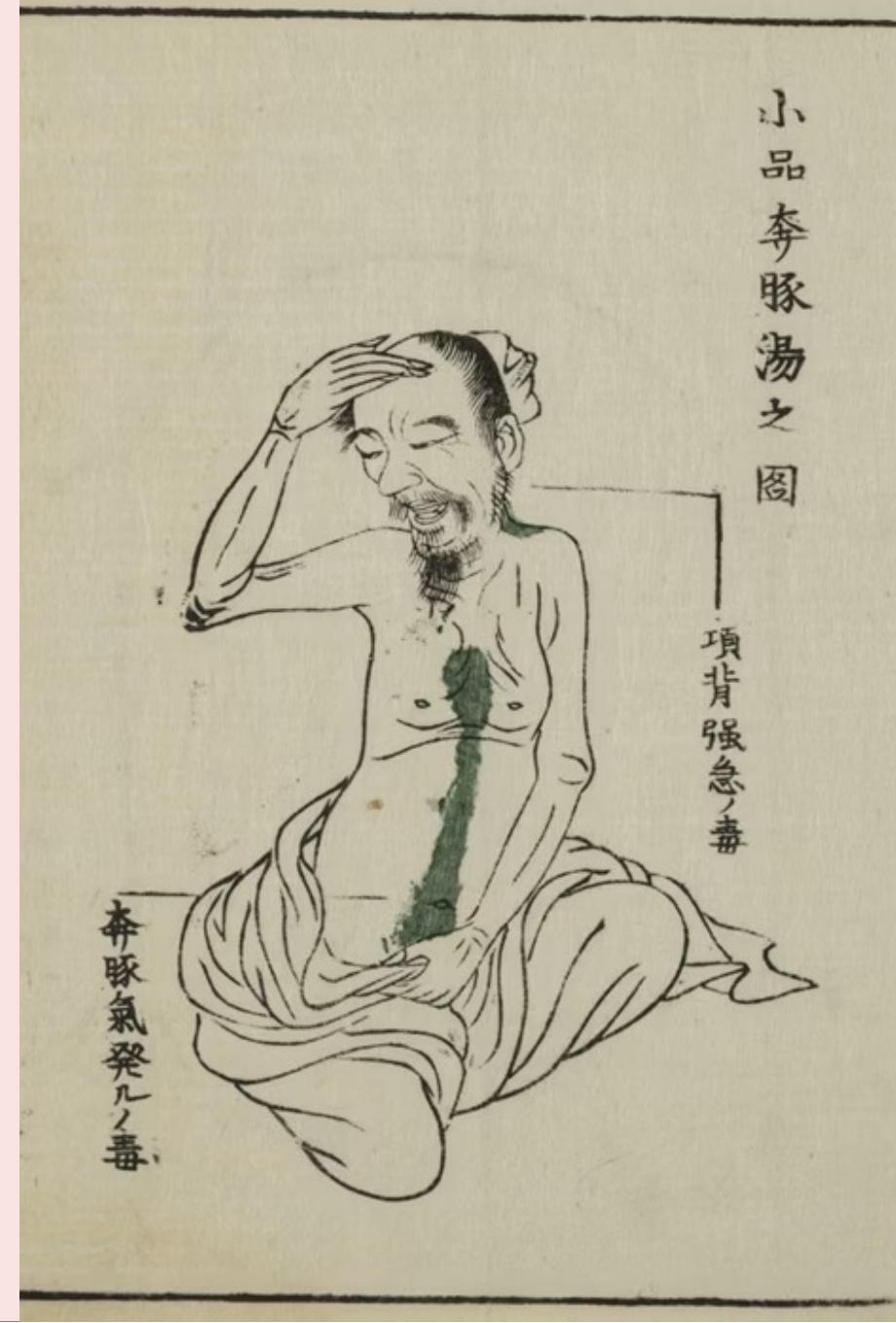
桂枝、半夏、乾姜、竹節人參、甘草、茯苓、防風



○防風茯苓湯

図の如く、
臍底に動気ありて
胸滿、氣急促迫、
心痛して涎を吐し
虚冷のもの
此の方を用いて効あり

防風茯苓湯も
乾姜人参半夏丸
甘草乾姜湯を含み
脾胃の虚寒証を認めるが
附子を含まず
廣濟奔豚湯ほどには
陽気の虚脱に至っていない

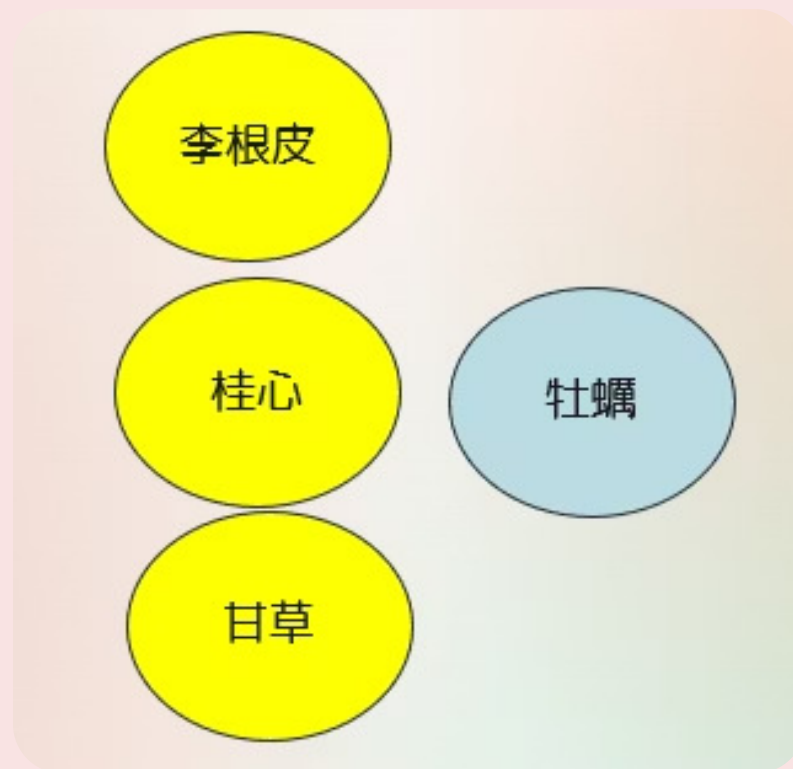


小品牡蠣奔豚湯

牡蠣、桂心、李根皮、炙甘草

小品牡蠣奔豚湯

牡蠣、桂心、李根皮、炙甘草





○小品牡蠣奔豚湯

図の如く、
臍底に動気ありて
時々、奔豚気小腹より起こり
撞胸愚冒し
上逆或いは心痛
手足逆冷の者
この方之れを治す
(愚冒とは精神を失い、うっかりとして
気抜けの如くなるをいう)

小品奔豚湯は桂枝甘草李根皮の基本骨格に
重鎮安神薬の牡蠣を含み
桂枝加竜骨牡蠣湯のように
背景に腎虚があるため虚陽が浮揚し
動悸と同時にボーとして不安で
心気不定のものに用いる

小品牡蠣奔豚湯之図

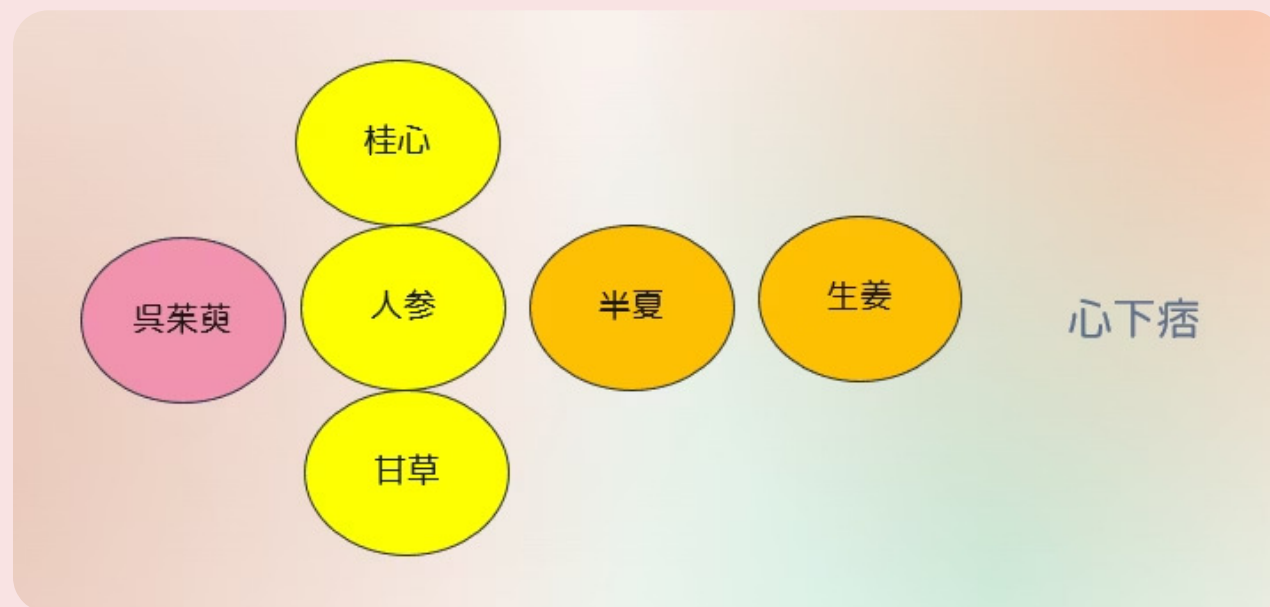


呉茱萸は上衝した気を胃に納める

肘后奔豚湯

桂皮、甘草、呉茱萸、人参、半夏、生姜

苓桂朮甘湯合呉茱萸湯で代用



肘后奔豚湯の目標

(寺沢捷年)

1. 驚愕、恐怖、抑うつなどが誘因
2. 発作性の動悸、のぼせ、頭痛
3. 腹部より上行する不安感
4. 太陽病期虚証（上熱下寒の傾向）
5. 気虚
6. 臍上悸、心下悸
7. 痙癖、心下痞鞭

痙癖、肩癖（首から肩にかけての筋が引きつること）

呉茱萸は気を胃に納める

性味：辛、苦、熱、小毒

帰経：肝腎脾胃

葉能：暖肝、散寒止痛

下気止嘔—上衝した気を下ろして胃に納める

温中助陽—下陷した気を上げて胃に納める

応用：頭頂部から側頭部の肝胆経の頭痛、偏頭痛（厥陰頭痛）

悪心嘔吐、涎やつばが多い

下腹部から鼠径部、大腿内側の冷え（寒滯肝脈）

夜明け前の下痢（脾腎陽虚、五更瀉）

肝気を下すので副交感神経の緊張を緩めるとともに交感神経の興奮も静める

胃の不快と奔豚気

奔豚気病の症例に発泡剤を服用させ上部消化管X線撮影を試みたところ、奔豚気様発作が誘発された。このことから胃腔内に送気する奔豚誘発試験法を考察し、これを用いて血中のノルエピネフリン、エピネフリンの挙動についてHPLC法で検討した。

症例1は44歳の主婦。卵巣機能不全を基礎疾患に有する奔豚気病類似の病態である。エピネフリン値は負荷試験前においてすでに高値を示したが、負荷試験によりさらに上昇し、かつノルエピネフリンも著明に増加した。

症例2は49歳の主婦。慢性関節リウマチを基礎疾患に有するが、精神葛藤により奔豚気様症状を呈した。奔豚負荷試験によりノルエピネフリン、エピネフリンは共に著増した。

土佐寛順、奔豚気病に関する一考察II

副交感神経緊張の揺り戻しにより奔豚気が誘発される 動悸を治す処方なのに鎮嘔の乾姜人参半夏と呉茱萸が使われる 意味がここにある

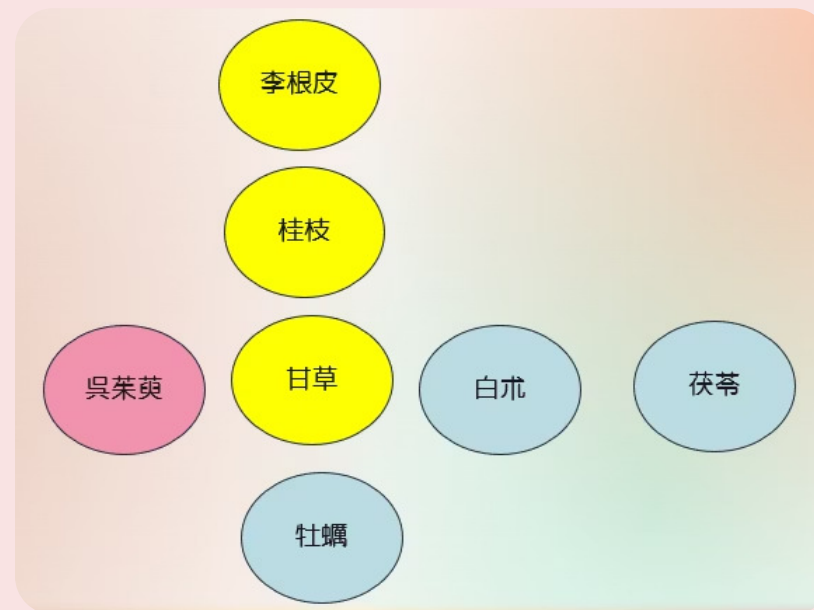
胃の痞えや腹鳴、腹満といった副交感神経緊張の症状が、交感神経の揺り戻しを引き起こし、動悸や不整脈を誘発することがある。胃のもたれや嘔気を治す乾姜人参半夏の組み合わせや、呉茱萸の気の上衝を抑えて、嘔気を治す作用が、動悸の誘発を予防すると考えられる。

これが、各種奔豚湯にしばしばみられる乾姜人参半夏の組み合わせや呉茱萸の加味の意味なのではないだろうか。

定悸飲

桂枝3、甘草2、李根皮3.5、茯苓6、白朮3、牡蠣3、呉茱萸1.5

コタローのOTC薬あり
なんと李根皮が入っている



定悸飲は桂枝甘草李根皮の基本骨格に脾胃を補う苓桂朮甘湯を加え
重鎮安神の牡蠣

気逆を治す呉茱萸を加えたいところ取りの奔豚の処方といえる

桂枝3、甘草2、李根皮3.5、茯苓6、白朮3、牡蠣3、呉茱萸1.5

定悸湯の代用としての苓桂朮甘湯合呉茱萸湯

苓桂朮甘湯：桂枝、甘草、白朮、茯苓

呉茱萸湯：呉茱萸、人参、生姜、大棗

牡蠣はないものの重なる生薬がなく良い組み合わせといえる

コタローのOTC薬あり

浅田宗伯 勿誤藥室方函口訣

奔豚湯必ずしも奔豚を治するのみならず

奔豚気病は、胃痛や頭痛、帯下、嘔吐、半身の痺れなどの主訴で発病することもあり、愁訴は仮面を被ってあらわれる。頭痛、喘息、種々の疼痛、冷えのぼせなどの自立神経症状を奔豚気病と判断することによって解決の糸口が得られることがある

寺沢捷年:奔豚気病の種々相、漢方の臨床39(2):96-98、1992

肘后奔豚湯有効例

動悸以外の主訴にも奔豚湯が有効

1. 48才女、発作性のほてり、動悸、不安
2. 72才女、発作性の動悸
3. 35才男、発作性の不安、動悸
4. 57才男、発作性の動悸
5. 15才女、チック
6. 48才女、ホットフラッシュ、眩暈
7. 36才男、パニック発作
8. 30才女、月経前症候群、喉の違和感
9. 24才女、喉のつかえ
10. 51才女、動悸

(森幸子、日東医誌、Vol,65,No4.302-308,2014)

突発性難聴に伴うめまい

(小川恵子)

症例) 57才、女性

主訴) めまい、耳鳴、難聴

現病歴) こたつで横になっていたところ、急に回転性めまい、耳鳴り、嘔吐、難聴。

現症) 身長153cm 体重43kg。腹力軟弱、腹直筋緊張、小腹不仁、心下痞鞭、臍上悸、臍下悸、臍傍圧痛、
痙癖、壇中の圧痛。足冷、上熱下寒。

経過) 苓桂朮甘湯と呉茱萸湯の併用でやや改善

肘后奔豚湯加白朮茯苓（桂枝4，甘草2，人參2，生姜3，半夏4，呉茱萸2，白朮2，茯苓2）で改善。



永富独嘯庵(1732-1766)

奔豚必ずしも 奔豚湯を用いず

桂枝加桂湯、苓桂甘棗湯、桂枝加竜骨牡蠣湯、桂枝甘草湯、
柴胡加竜骨牡蠣湯、良枳湯などの奔豚湯以外の処方も
奔豚気にしばしば用いられている

症例 41才 男性

主訴) めまい、動悸、不安感

現病歴) 四ヶ月前、車の運転中に突然、めまいがあり、耳が熱くなり、動悸が収まらず、身体が震えた。
発作があるときには胃のむかつきもあり、食欲もなくなる。

脳神経内科受診し、頭部MRI、CT、心電図、採血にて異常なし、改善しなければ安定剤を処方すると言われた。

職業) 一日中パソコンを使ってデスクワーク
眼精疲労がはげしい。

四診

身長173cm、64kg

望診：不安顔貌、やや上気している。

脈：弦、やや数

舌：淡紅色、薄白苔

腹診：腹力やや弱、臍上悸＋

経過

以上の所見より柴胡桂枝乾姜湯3包、苓桂朮甘湯3包を処方し、発作時に頓用で苓桂朮甘湯合甘麦大枣湯を処方する。手足のピクピク、不眠あり抑肝散加陳皮半夏1包を眠前に処方。また胃の不調に対して黄連湯を頓用で処方している。この処方で動悸、めまい軽減し、不安はなくなることはないが、軽減し、発作でいてもたってもいられないことはなくなった。偏頭痛あり、今後呉茱萸湯を処方予定、呉茱萸は気逆を治す作用もあり、奔豚への効果も期待する。

強いからこそ症状に弱い

パニック障害の患者さんには、もともと身体のこと、不都合を感じる事が少なく、健康不安を感じたことのない人が案外多い。

このような人が突然、制御不能の動悸、めまい、息のしずらさなどの症状に陥ると、そのときの症状と不安感や恐怖感がセットになって強い情動記憶を作る。

この情動記憶がパニック障害をきたす素地となってしまうため、外因的刺激を伴うか否かにかかわらず、ささいな情動の変化によっても発動し、再び制御不能の状態になるので、本人は常日頃から症状におびえることとなる。

逆に普段から自律神経が不安定で、日常的に動悸、めまい、腹痛などをおこしている方は、症状があってもパニックにまではならないことが多い。自分にとってショックだったパニック発作が不安を増大させているだけだということをよく説明するべきである。

「普段、強いからこそ、パニック発作におびえるようになり弱くなったのだ」と、いうことを最初のムンテラでしっかりと伝えることが大切だと考えている。

転機1

この患者さんは、普段から健康に自信があり、ワンマンで、家族に対しても抑圧的で、妻とうまくいかず、離婚していた。

この病気になって、自分の傲慢さに気づき、家族との復縁を考えるようになった。一方、嫁は、離婚を契機にフルタイムの仕事をするようになったが、職場の労働、人間関係など、「主人は、なんの愚痴もいわずに家族を守り続けるために大変な仕事をしてくれていたんだ。」と夫の苦勞がわかり、双方が歩み寄り、復縁することとなった。

展開2

ところが、数ヶ月後、妻が鬼の顔をして来院。

「夫は、以前と比べて、態度が真逆で、ちょっとしたことで、不安になり、発作は軽減しているものの、時々、しんどそうにしている、完治にはほどとおい。いつになったら治るのか、医者を変えた方がよいのか」という。

そこで、病気の成り立ちを話し、寛解と増悪を繰り返すが、妻のおかげで、家庭という安心な場所ができたことで、順調に軽快していること。必要な時は、抗不安薬や、抗うつ薬を処方できること、心療内科の受診が必要と判断したら、いつでも紹介できること、妻は腫れ物に触るように接するのではなく、苦しいときはいつでも夫に言いたいことをいってもよいことを伝えた。そうすると帰り際、夫に「この医者は絶対に変えたらいかん」というようになった。その後、徐々に症状は改善している。

奔豚湯のまとめ

- 奔豚気は情動の抑圧と暴発の表裏からなることを理解する
- 奔豚気を治すには、まず頭で病気の成り立ちを理解することが重要。
- 抗うつ薬や抗不安薬は有効であるが、新たな依存性を抱える可能性があり、減薬や廃薬が困難な症例は多い。
- 漢方薬の作用は強いものではないが、患者さんに治癒の方向性を示し、症状に向き合う力を援助することができる。
- 患者さんの環境要因の調整や、家族内の交通整理を通して、患者さんが病気に向き合う手助けをすることが重要である。



みね君
薬というもんはなあ
あんまり効かへんほうが
ええんやで

漢方はその人の
気づきや安心を育てるための道具

病気を治すのは病人さん自身なんや